

稲城市議会 会派

起風会

地域活動で汗をかき、現場から地域を変える「現場主義」＋ 実現可能な解決策を提案し、実行に奔走する「現実主義」



稲城市議会議員全員で、各土地画整理事業を現地視察を行い、その重要性を認識している。(区画整理中の南山頂上部にて撮影)

任期最後の議会、誠 予算に対する考え

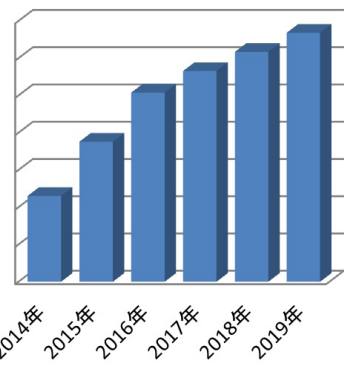
昨今の稲城における一番の課題は何でしょうか？

私共は、多摩ニュータウン事業から、幸か不幸か「周回遅れ」で進行する市施工4地区(榎戸、矢野口駅、稲城長沼駅、南多摩駅周辺の各地区)、組合施工3地区(南山東部、上平尾、小田良の各地区)の土地区画整理事業に多くの事象の遠因があると考えています。

同事業の進捗による人口増は市内の保育所待機児童増にも影響し、また周回遅れが遠因で塩漬けになってきた土地には想定外の企業が進出、ベッドタウン化する中で市内の農業・商業はどのように維持・発展させていくか、緑被率はどうように担保するか：等々の諸問題が見えてきます。

今回の予算案は、現在市が抱えるそれら諸問題の対策に概ね合致した現実解であり、収入と支出のバランスを取り、現実的な取捨選択をしたことが予算審議の中で確認出来ました。

「開発より福祉を」という言葉はとても耳障りが良いのですが、緑を最大限に活かすべく関係各位が努力しつつ進める良好なまちづくりは、個人市民税や固定資産税といった市税収入の増加に直結し、その結果として、将来的には貴重な財源として福祉文教の向上に充てられると考えます。



市税収入は平成28年(2016年)に初の150億円を突破、その後も人口増加に伴って年々パイが大きくなっている。

ゆえに、すでに始まっている各土地画整理事業については、破綻させることが無いよう、市自体は勿論、都や国の協力を最大限に引き出して、きっちり完遂させることが、現在の稲城市にとって最大の責務であると断言できます。



上平尾と小田良を結ぶ新トンネル施工も着々と進む。

そして、目先だけでなく、さらに先々のことも併せて考えなければなりません。いくら人口が東京一極集中の流れで、特に稲城市が恩恵を享受しているとはいえ、日本全体を見れば少子高齢化どころか、消滅社会が叫ばれ、数十年後には稲城にもその影が落とされる日が来ると懸念されます。

それに対し、次世代を担う稲城っ子のための教育・子育て環境の充実、誰もが安心安全に暮らせる良好な住宅インフラ・介護・医療、そして防災施策を整えて「自分の子や孫が、またこの稲城で暮らそう」と思ってくれる、「世代が循環する街・稲城」を、人口ボーナスを享受している今の内に構築せねばなりません。何事も文句をつけるのは簡単ですが、難しいのは企画し、実行し、結果を出すこと。私共も一人の市民として、皆様の代理として、市政が着実に前進する、負ではない、「正のスパイラル」に引き続き陰日向なく取り組む決意です！

皆様の声を力に、 想いを形にした4年間

一議員に過ぎませんが、その背中には9万人の稲城市民の信託を背負っています。ただ市民の声を伝えるだけでなく、メール一本で事足りません。あるべき理想を抱きつつ現実解を探し、時には嫌われつつも声を力にし、切実な想いを見える形に変えてきた、そんな二期目の4年間でした。



二期目の4年間...ではなく二期8年間に渡り、「議席番号13番 & 14番」。議場中心席の最前列にて、常に前のめりな姿勢で議会に臨んで参りました。引き続き頑張ります！

議員一人だけでは、 政策を実現できません

稲城市議会の現状では、①他議員の賛同を得て、多数意見として提案
②一般質問等で個別に提案が現実解となります。
様々な背景を持つ議員が集まる議会では、責任あるポジションに付き多数派形成を主導するか、市を唸らせる説得力のある提案をするしか無いと考え、行動して参りました。

◆ 議員番号13番、中田中 なかたあたる(49歳) ◆ 議員番号14番、鈴木誠 すずきまこと(36歳)

都立科学技術大(現 首都大)卒→日本HP、日本IBM。第2子誕生を機に自然・教育環境の充実した稲城市に惚れ込み転居。若葉台ワルツの杜在住。平成20年に稲城市教育委員、平成23年に稲城市議会議員初当選、現在2期目。昭和44年6月生まれB型、妻子(息子1娘1)愛犬1匹と同居。ICT活用、防災の充実、主体的市民によるまちづくりを提案中！

【役職・資格等】・稲城市議会議員(二期)・同 福祉文教委員・稲城市土地開発公社 評議員・青少年育成若葉地区委員会 顧問・若葉台体育振興会 会員・若葉台夏祭り実行委員会 委員・若葉台防災協議会 事務局・若葉台ワルツの杜自主防災組織 本部長・若葉台ワルツの杜 防火管理者・若葉台ワルツの杜自治会 副会長・稲城市消防団第八分団 団員・日本防災士機構 認定防災士、他



www.ataru-nakata.com



www.inagi.info

法政大卒→(株)リクルートコミュニケーションズ(旧(株)RMC)。結婚を前に幼少期を過ごした稲城市平尾へ。平成23年、当時最年少で稲城市議会議員初当選、現在2期目。昭和57年5月生、妻子(娘3人)、親世帯、愛犬1匹と「昔ながらの大家族暮らし」を実践中。

【役職・資格等】・稲城市議会議員(現職最年少)・建設環境委員会 委員長・稲城市国民健康保険運営協議会 会長・稲城青年会議所 第41代理事長(わんぱく相撲行司/かえっこバザール オークション)・稲城市消防団第六分団 副分団長・稲城市パドミントン連盟男子代表選手・稲城まちかど楽友協会 理事・共生型子ども食堂クッチイナイなぎ 理事・自転車のまち 稲城 共同代表・東京都三市収益事業組合協議会 議員・平尾宅地分譲住宅自治会 事務局長・平尾杉山神社奉賛会 理事・林英臣政経塾 広報官・日本防災士機構認定 防災士・日本赤十字救急法救急員・関東総合通信局 陸上特殊無線技士、他

二期目最後、平成最後の議会が閉会。どのような予算になったのか？

起風会に聞く

《インタビュー：近藤信彰》

「平成最後の稲城市議会が閉幕。共産党を除く全議員賛成で可決した平成31年度（「新元号」元年度）予算の判断について伺います」

鈴木：「100点満点というわけではありませんが、最も重要であると目される基盤整備、防災・防犯対策、環境対策、子育て支援、高齢福祉・障害福祉など、様々な課題に対応しながら、健全財政の維持にも配慮したバランスの良い予算だと評価しています。」



質疑には持論の展開は勿論ですが、如何に市がその方向を向くか、勝負所です。

中田：「そうですね。基盤整備は、鈴木君が予算に対する賛成討論で演説(?)していたように、稲城市の最重要課題だと私も考えています。南武線3駅や南山地区などが遅れて整備されたところが、持続的な人口増を生む一方で待機児童問題や産業振興、農業の支援にも影響しているの、市として



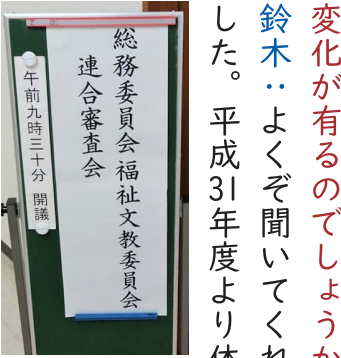
今回の予算特別委員会の総括質疑では、ICT、健全財政について質問しました。

も「将来を見据えて基盤整備にしっかりと取り組んでいく」というメッセージを強く周知すべきですね。鈴木：個人市民税や固定資産税の増に顕れて、市の財政健全化に貢献しつつあることも今回の予算で確認出来ました。そのような健全財政のベースがあるからこそ、大丸や矢野口で進む認可保育園の新設を中心とする「おもいきった待機児童対策」が実施できるといってもあります。ただ公設民営保育園の建設費増は、ニュータウン地区の小中学校建設費のように市の財政、とりわけ土木費に直接乗るので注意が必要です。お二人は現役消防団員でもあるわけですが、防災ではどんな点に注目ですか？

鈴木：「聴覚・言語機能障害者が携帯端末等を操作することによって119番通報ができる仕組み「NET119」がこんなにもスピーディに導入されたことです。昨年私が一般質問で取り上げさせていた

「だいたいで感慨ひとしおです。本導人により、関連障害を持たれる方々による緊急通報時の意思疎通が容易になります。また一歩、安心安全の街となりました。中田：私はいなぎ防災マップの更新ですね。今回から震災だけでなく風水害・土砂災害と幅広い情報を盛り込むことになり「冊子型」となるそうですが「それなら当然、PCやスマホで見られるようにするべきでは？」と質したところ、WEB対応も費用に含まれていることが確認できました。

「いよいよ東京2020も来年ですね。市の体制には変化が有るのでしょうか？」鈴木：よくぞ聞いてくれました。平成31年度より体育



初の総務委員会・福祉文教委員会連合審査会

課を教育委員会から市長部局に変更され「市民部スポーツ推進課」となります。教育委員会の所管業務を変更するには条例改正が必要となることから、議会でも活発な議論が交わされました。私としては、学校とスポーツの連携がこれまで同様なのは絶対条件ですが、オリパラだけでなく、高齢

者や障害者によるスポーツと福祉の関係、プロスポーツやスポーツ観戦などの経済・観光との親和性といった面から積極的に推進すべき、という意見です。中田：その通りだよ。稲城市は東京2020の自転車ロードレースの会場の一部になることが決定しています。世界を代表するアスリート達の戦いを観戦するために、世界中の人々が我

「体制と言え、市立病院も何やら変わるそうですが」鈴木：はい、4月から「地方公営企業法の全部適用」となります。自治体病院としての使命・役割はそのままに、組織・人事などの病院経営の権限を病院事業管理者に移行することで、より効果的かつスピーディーな経営ができるようになる、とのこと。新たに管理者となる現・市立病院長自身からも強い決意をお聞きすることができました。



東京2020オリンピック・パラリンピックに対応したフレキシブルな行政運営が出来るよう提案。中田

「議会最終日、補正予算で一悶着あったそうですが」鈴木：この度、東京都公立学校屋内体育施設空調設置支援事業補助金が創設されたことを受け、稲城市は都庁へと直談判に赴き、ついに稲城市内の市立小中学校全ての体育館にクーラーが設置されることが決まりました！ただ、これに関連し事実と相違した内容の某政

党広報紙が頒布されていたことが発覚し、名指しされた関係各党含め討論が白熱して…。中田：私自身も以前に、同じ某政党含む方々から「国政と違い、地方議会に野党与党は無い！」とお叱りを受けていたにも関わらず、叱責してきた御本人たちが同じ轍を踏む姿に「おお、これがいわゆる『ブーメラン』というやつなのか」と(苦笑)

鈴木：体育館へのクーラー設置は、小学生の子を持つ親としても喜ばしい限りですが、一昨



避難所となっていた日田市立三和小学校の体育館。その後別の避難所に移ることになった理由の一つが「体育館の酷暑」。これが解消されるのは幸運と言えます。

7月の九州北部豪雨被災地にて、酷暑の体育館避難所を体験したこともあり、防災面でも良い決断だと感じています。中田：確かに、本年中に市内全校に導入すると決断したのは都内26市中で稲城市と武蔵野市の2市のみだからね。ただ、工事は今夏には間に合いません。一夏を乗り切る工夫が必要です。鈴木：既に春どころかに初夏の兆しも。猛暑も災害ですからね。

HP ataru-nakata.com
HP inagi.info